

未来を見据えたJean Prouvéの合理性と革新性

Text : Kyoko Furuyama ※価格は税込み

建築、家具、工業デザインの領域を横断し、20世紀の建築家やデザイナーに多大な影響を与えたジャン・ブルーヴェエ。展覧会「ジャン・ブルーヴェエ展 椅子から建築まで」は、今も色あせない彼のものづくりに、豊かな未来を感じさせる。

1901年、ブルーヴェエは鉄鋼業で活気づくフランス・パリに誕生。同じころ、芸術を刷新して暮らしに取り入れることを目的に、芸術家や職人、工場経営者がナンシー派を発足した。それを率いた画家の父に影響を受けた彼は、金属工芸の道へ。20年代末には自身のアトリエを設立。工業製品で人々に健やかな暮らしをもたらすという信念のもと、金属の可能性を追求し、家具や建築の設計を始め、金属の加工まで行った。彼は自らを、構築家と呼び、合理的な製造方法で美しい建築や家具を生み出すことに注力した。それを示すのが「スタンダードチェア」の原型。'34年に発表した「チェアアール」の薄銅板を折り曲げた太い脚を、荷重負荷の大きい後脚に用いたこのイスは、機能的なアプローチと芸術的感性が見事に融合。発表後も座り心地を追求しながら、使う環境や調達可能な原料に合わせて、20年以上更新し続けた。同時に、プレファブ建築にも熱心に取り組んだ。「10x8 BCC組立式住宅」(写真左下)を始め、数日で組み立て、解体、移築が可能なこれらの建築は戦後の復興に貢献。今日の環境問題を解決に導くヒントも垣間見える。

飽くなき探究心、合理的で革新的な思考、未来を見据える力。ブルーヴェエのものづくりは決して古びない。だからこそ彼のデザインは愛され続けるのだろう。

右/「ジャン・ブルーヴェエ展 椅子から建築まで」では1930〜'55年に手掛けた62脚のイスを展示。写真は「組立式ウッドチェア CB 22」('47年)。© Galerie Patrick Seguin © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 C3892 左上/建築設計を始め、構造設計、鉄鋼の溶接をもこなし、実に多才だったJean Prouvé。© Centre Pompidou-MNAM/CCI-Bibliothèque Kandinsky-Dist. RMN-Grand Palais 左下/Prouvéはいち早く建築のモジュール化に取り組んだ。写真は本展でも展示するProuvéとPierre Jeanneretの共同設計による「F 8x8 BCC組立式住宅」('42年)。Yusaku Maezawa collection [the CONSTRUCTOR ジャン・ブルーヴェエ：組立と解体のデザイン](2016年、東京・フランス大使公邸)での展示風景。Photo by Kaori Nishida © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 C3892



ジャン・ブルーヴェエ展 椅子から建築まで

〈東京都現代美術館 企画展示室 1階・地下2階〉東京都江東区三好4-1-1
 会期/2022年7月16日〜10月16日 開館時間/10:00〜18:00(最終入場は17:30) 月曜休※祝日の場合は開館、翌日休館 入場料/一般2,000円 大学生・専門高校生・65歳以上1,300円 中高生800円 小学生以下無料
 URL : <https://www.mot-art-museum.jp>